

武石地域協議会 会議概要

1	審議会名	武石地域協議会
2	日 時	平成 23 年 9 月 28 日 午後 7 時 00 分から午後 9 時 00 分まで
3	会 場	武石地域自治センター 第 1 会議室
4	出席者	上野正司委員、柿畠祐子委員、清住章雄委員、清住洋子委員、越 博徳委員、小山洋江委員、下村孝明委員、滝沢由美子委員、竹内利通委員、中嶋和夫委員、橋詰真由美委員、樋澤たえ子委員、松井幸夫委員、松代典之委員、森美由紀委員、柳沢裕子委員（欠席 4 名）新井繁雄委員、大沢春樹委員、北沢賢二委員、小宮山昌武委員、
5	市側出席者	伊藤地域自治センター長、木藤地域振興課長、山口市民生活課長、牛山産業観光課長兼建設課長、掛川武石教育事務所長、児玉地域振興課長補佐（欠席 1 名）近藤健康福祉課長、
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者	0 人 記者 0 人
8	会議概要作成年月日	23 年 10 月 14 日 作成部局課名 武石地域自治センター 地域振興課
協 議 事 項 等		

1 開会（滝沢副会長）

2 会長あいさつ（清住会長）

①農繁期をむかえ関係委員にはこの時間の出席は大変と思うがよろしく願いたい。②国政では、震災の復興がままならず、国会でも復興の原資をどうするかがなかなか進まない状況にある、早く方針が決まってほしい。③地域協議会では、3 回に分けて雲溪荘についての協議を実施してきた。今回は委員の皆さんの意見を聞かせていただきたい。限られた時間だが活発な協議をお願いしたい。

3 センター長あいさつ（伊藤センター長）

①地震災害の募金等について、市直接分、東日本大震災 3596 万円、県北部 516 万円、市長直接分、東日本大震災 1006 万円、県北部 41 万円、社会福祉協議会、東日本大震災 3975 万円、県北部 292 万円、それぞれのルートで被災地に渡した。②避難世帯について、東日本大震災の関連で東北地方から 38 世帯 104 人市内に避難している。③市内の放射線量について、上田、丸子、真田、武石地域で毎週測定して公表している。武石は 0.06～0.075 μ Sv/h ほどで環境に影響はないレベルで推移している。④台風 15 号の被害は、頭首工、林道など軽微なものであった。⑤小牧線の仮設道路が 9 月 29 日より開通した。

4 協議事項

雲溪荘の今後について

【資料説明】（事務局）

地域協議会「雲溪荘の今後について」協議の概要

これまでに 3 回実施した協議（公社、行政、経営コンサルタント）の概要についてまとめた資料を基に説明を省略して協議に移った。

【主な質疑・意見】

（会長）資料を前もって見ていただいた。今年度は議論を重ね一定の方向づけをしていきたい。しかし、事業団武石地域センターの指定管理の期限は、平成 25 年度までなので来年度には結論を出したい。そのようなことを踏まえて議論をお願いしたい。今日は委員一人ひとりの意見をお聞きしたい。

（委員）経営改善を行った後でも、同じ料理が出てくるので改善になっていない。存続を願うが、料理の改善がなければ同じことになってしまうと思う。

（委員）温泉は残してほしい。しかし、以前に何回も同じ料理を出されたのでそれ以来利用していない。風呂を大事にして、料理や雰囲気大切に残留してほしい。

（委員）雲溪荘にやる気があるかないか、赤字になっても補填されるからいけない。他から補てんしないで完全独立採算で経営していく気概がほしい。やるならコンサルタントに依頼するなどしていくべき。

（委員）雲溪荘はぜひ残してほしい。改築の費用は持寄り分基金の活用も含めて、規模を縮小しても残してほしい。新たに利用補助券も考えてほしい。改築しても心配なく続けられるようにしてほしい。

(委員)所属団体の2~3人の人と話したが、存続という意見はなかった。市民が多く利用するならいいが、市外の人が多く使うのに、市の税金を入れるのはどうかと思う。

(委員)コンサルタントの先生の話は明るい見通しだったが、市の予算でエレベーターやトイレなどの改築をしても、費用対効果や元を取れるかを考えると、非常に難しいと思う。このまま税金を投入してプラスマイナスゼロに行くのか疑問。どんどん深みに入ってしまうと思う。立て直すならかなりすごい知恵袋を持つ人を連れてこなければだめ。

(委員)いろいろな人に聞いてみたが、存続という意見はほとんどない。コンサルタントの先生は、いろいろな事業を複合させるという話だったが、これから立ち上げるというのでは難しい。今旅館をやる必要はない。福祉的なことで存続を考えたらどうか。

(委員)風呂はだれに聞いてもいいという。風呂を残すなら旅館でなくてもいい。たとえば介護施設の利用者を対象にするなど施設をどう活用するかを考えるべき。

(委員)知人に聞いてみたが、経営改善を実施している最中に利用したがあまり良くなかったと言っていた。イメージが良くない。私たちの世代(30~40代)にニーズがない。今後続けても利用者は伸びないと思う。

(委員)個人的には存続してほしいと思うが、運営内容を見ればお金がかかりすぎると思う。試食時の料理が出ればいいが、料理は未だによくはない。また、500円安く頼めば全然ダメになってしまう。現実的に見れば存続は難しい。

(委員)今、送迎してくれる地元の旅館は珍しい。だから存続してほしい。しかし、コンサルタントの経営改善案にあった、農業団体の我々が経営に参加するというのは疑問に思う。我々が入っても人の教育はできない。もうしばらく現状維持をする中で職員の教育を進めてほしい。特に料理がいけない。来た人の顔や名前でその団体に合わせた料理に内容を変えるなど個別のニーズに合わせた対応が必要と思う。

(委員)施設は決して悪くはないと思う。現実としてプロが指導して経営改善をはかってもサービス内容は何も変わらない。この状態が続くのなら無いほうがいい。私たち世代(30~40代)では雲溪荘は遊びに行く候補にならない。年をとっても使わないと思う。そう考えるとすぐにでも内容を改めてもらい、旅館という形態を考えて、日帰りの施設にするなど考えてほしい。

(委員)雲溪荘で武石を活性化したい。雲溪荘に行つて気づいたことは、食事の片付けがしてない、ティッシュボックスにカバーがない、風呂の棧が壊れているなど、細かいことが未だ直されていない。また、昼食時に2,000円ぐらいの松花堂弁当の提供を始めるなど考えてほしい。外から見ているのではわからないので、雲溪荘で売店をさせてもらうことにした。中で考えてみたい。コンサルタントの経営改善の効果は1年半では効果が出ない。県などの補助金を活用してコンサルタントの先生に継続して指導をお願いする方策を考えるべきと思う。

(委員)私の周りには、雲溪荘の継続は無理だという人が多い。宿泊ももう少し考えて、銭湯のように使ったらどうか。資金面で新たな事業をして人を集めていくのは難しいので、細く長く継続してほしい。

(会長)全体的には継続の意見が少し多いと思った。地域を活性化していくには人の出入りができるようにしていかなければいけない。武石は行き止まりの地域、何とかして観光に力を入れないとだれも来てくれないから存続という意見が出ると思う。私もなんらかの方法で存続を考えるべきと思う。やり方や経営者が替わればよくなることもある。今後、事業団武石地域センターの指定管理が切れたら業者選定に一般業者に入ってもらえることになる。それまでの間にどうしたらいいか考えていったらどうかと思う。今後の方向性についてどのようにしたらいいかお聞かせ願いたい。

(委員)料理の改善だが、5種類ぐらい料理のパターンを用意しておいて、日替わりで出していったらどうか。

(委員)給与を経験年数でなく、経営改善やサービスの向上に一生懸命取り組んだ人が多くもらえるよう歩合制にしたらどうか。

(委員)個人の旅館は、常連客の維持や新規の誘客に様々な工夫をしている。雲溪荘もそれに見習って根本的に改善を図らないといけない。

(委員)料理だが、1品でも毎日違うものが出るように工夫したり、県外と地元で料理を変えるなどきめ細かな対応をしたらどうか。

(委員)利用者の意見や感想を聞くシステムがないので「お客様の声」などの意見投入箱を設置するなど、意見を聞き、それを活かすシステムがほしい。

(委員)地元の人には来た回数や、申し込み者を考えて料理の内容を変えるようにしたらどうか。

【協議内容】

存続、用途変更、民営化、廃止を含めて検討など、様々な意見が出された。協議を継続し、来年度までに結論を出すことで了承された。

【その他】

- ①「地域の産婦人科医療を考える研究会」に参加した委員から内容の報告
- ②市災害メール配信について
メール配信の内容と登録方法の説明の後、その場で登録手続きを行う。
- ③上田市議会報告会の実施について
日時 11月17日 午後7時から8時30分 場所 武石コミュニティーホール

【次回日程】

協議の末 10月26日(水)と決定する。

5 閉会（滝沢副会長）